



2026年10月期 第3四半期決算補足説明資料

株式会社オービス（証券コード：7827）

2026年9月14日



3 Q
累計

売上高 (前年同期実績)

8,548 百万円

増減 **-1,414** 百万円 ▲ 前年同期比 **-14.2%**
(9,963 百万円)

3 Q
累計

営業利益 (前年同期実績)

180 百万円

増減 **-379** 百万円 ▲ 前年同期比 **-67.8%**
(559 百万円)

3 Q
累計

経常利益 (前年同期実績)

170 百万円

増減 **-378** 百万円 ▲ 前年同期比 **-69.0%**
(548 百万円)

3 Q
累計

売上総利益 (前年同期実績)

1,539 百万円

増減 **-264** 百万円 ▲ 前年同期比 **-14.7%**
(1,804 百万円)

3 Q
累計

営業利益率 (前年同期実績)

2.1%

増減 **-3.5%** ▲ 前年同期比 **-62.5%**
(5.6%)

3 Q
累計

親会社株主に帰属する 四半期純利益 (前年同期実績)

91 百万円

増減 **-257** 百万円 ▲ 前年同期比 **-73.7%**
(348 百万円)

木材事業において、2018年6月に稼働を開始した**福山工場設備(製材機械)の減価償却負担が減少**したものの、**原木消化量の減少**に伴い、**単位当たりの製造コストが上昇**。

ハウス・エコ事業において、**受注残高は第2四半期に続き過去最高水準**となるものの、重量鉄骨分野の販売が伸び悩み**大幅な減収**。**人材の採用は、計画どおり順調に推移**するも、人件費を中心とする販管費の増加を吸収しきれず**大幅な減益**。

決算 ハイライト		売上高	8,548 百万円	-14.2 % (前年同期比)
		営業利益	180 百万円	-67.8 % (前年同期比)
		経常利益	170 百万円	-69.0 % (前年同期比)
ト ピ ッ ク ス	木材事業	原木消化量は前年同期比 3.9%減 、完全週休2日制への移行により、工場稼働日数が減少。中国経済の停滞や中東情勢の緊迫化に伴い、梱包マーケットは低迷が続く。		
	ハウス・エコ事業	大型案件の失注・延期や着工遅れ により、販売実績が計画に対して大幅に未達。労務コストの上昇等による利益率の低下や販管費の増加に加えて、減収に伴う売上総利益の減少額が大きく、 営業赤字 となる。		
	太陽光発電 売電事業	定期的なメンテナンスの実施により、安定稼働を継続。業績は前年同期とほぼ同水準を確保。		
	ライフクリエイト 事業	来場者数は前年同期比で 1.3%増加 。資源価格の高騰に伴う燃料・資材等のコスト高を吸収するため、 プレー料金の値上げ を実施。		

2026年10月期 第3四半期 連結業績

(単位:百万円)	2025年10月期 第3四半期	2026年10月期 第3四半期	増 減 額	前年同期比
売上高	9,963	8,548	-1,414	-14.2%
木材事業	5,650	① 5,635	-14	-0.3%
ハウス・エコ事業	3,708	② 2,290	-1,417	-38.2%
太陽光発電売電事業	325	323	-1	-0.4%
ライフクリエイト事業	279	③ 297	+18	+6.5%
売上総利益	1,804	1,539	-264	-14.7%
販売管理費	1,244	④ 1,359	+114	+9.2%
営業利益	559	180	-379	-67.8%
木材事業	240	⑤ 218	-22	-9.2%
ハウス・エコ事業	333	⑥ -18	-351	—
太陽光発電売電事業	215	⑦ 218	+3	+1.4%
ライフクリエイト事業	27	32	+4	+15.7%
全社費用	-256	⑧ -269	-12	—
経常利益	548	170	-378	-69.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	348	91	-257	-73.7%

① 中東情勢の緊迫化に伴い、輸出関係の荷動きが低迷。完全週休2日制への移行により工場の稼働日数が減少、商品販売量は前年同期比0.7%増加するものの、自社製材品の出荷量は前年同期比3.5%減少。

② 官公庁及び重量鉄骨分野の大型案件が減少し、大幅な減収。※官公庁大型案件は年度末集中型から分散型へ。(4Qに複数の大型案件の売上計上を見込む。)

③ 来場者数の微増に加えて、2025年8月よりプレー料金の値上げを実施。

④ 人員増・ベースアップ等による人件費の増加に加えて、全社でPCの入替を実施。

⑤ 原木高に対して価格転嫁を進めたものの、原木消化量の減少により単位当たりの製造コストが上昇。3Qに入り減価償却負担が減少。

⑥ 大幅な減収に加えて、人件費を中心とする販管費の増加などにより営業赤字。

⑦ 3Qの天候不良等により若干減収となったものの、減価償却費の減少により増益。

⑧ 人員増・ベースアップ等による人件費が増加。

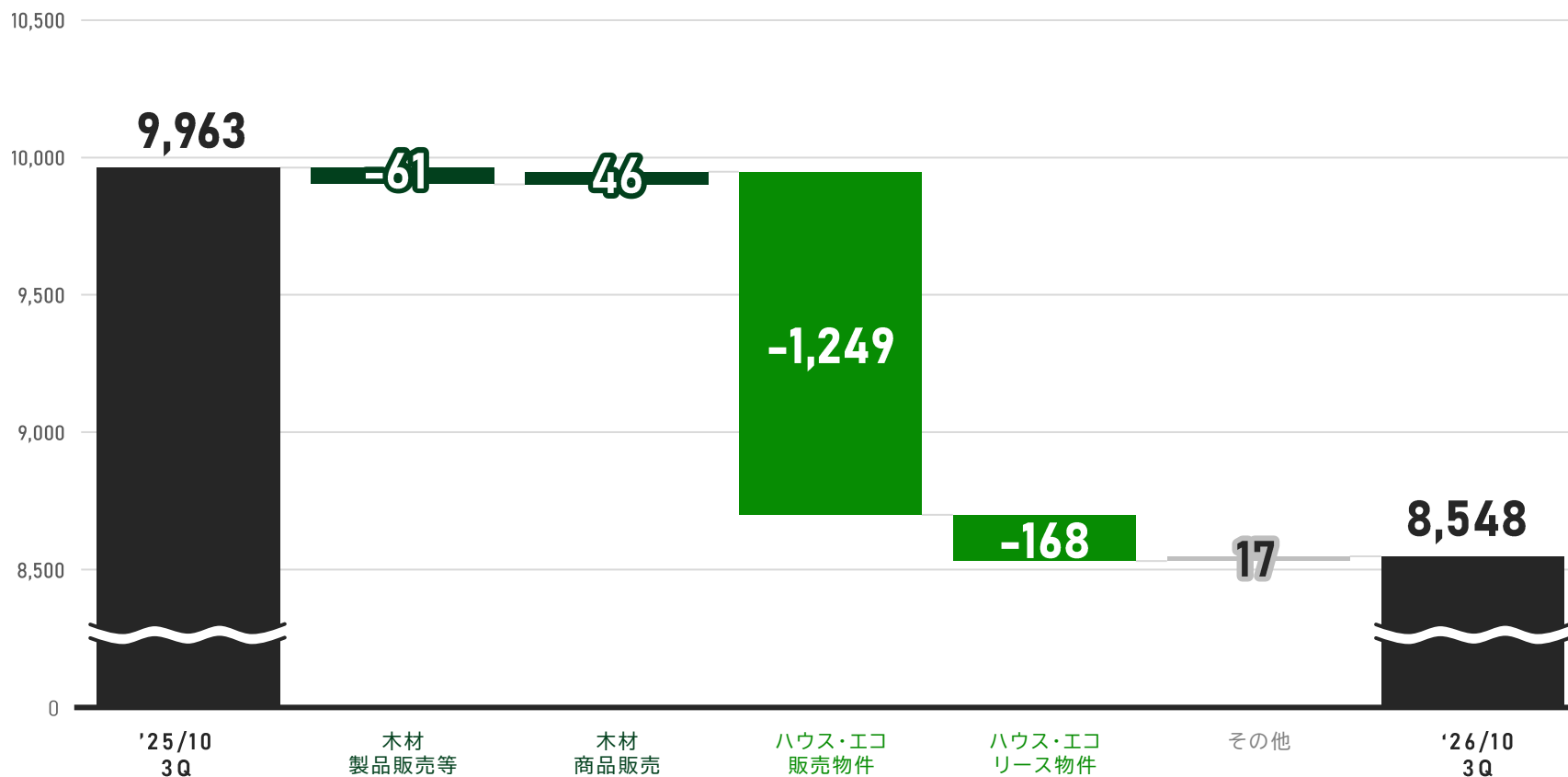
売上高

前年同期比



-1,414 百万円
-14.2%

(百万円) ● 木材事業 ● ハウス・エコ事業



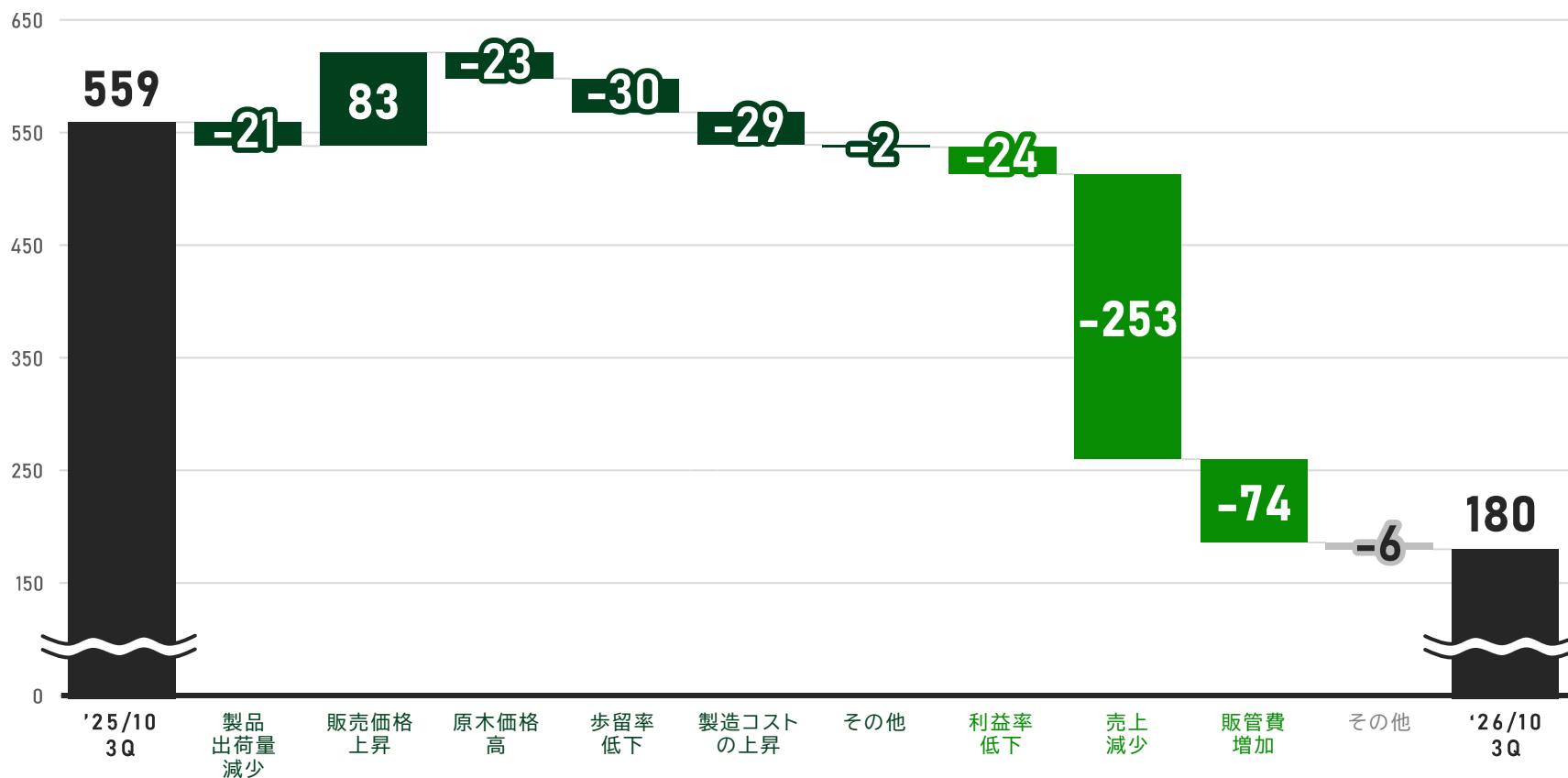
営業利益

前年同期比



-379 百万円
-67.8%

(百万円) ● 木材事業 ● ハウス・エコ事業



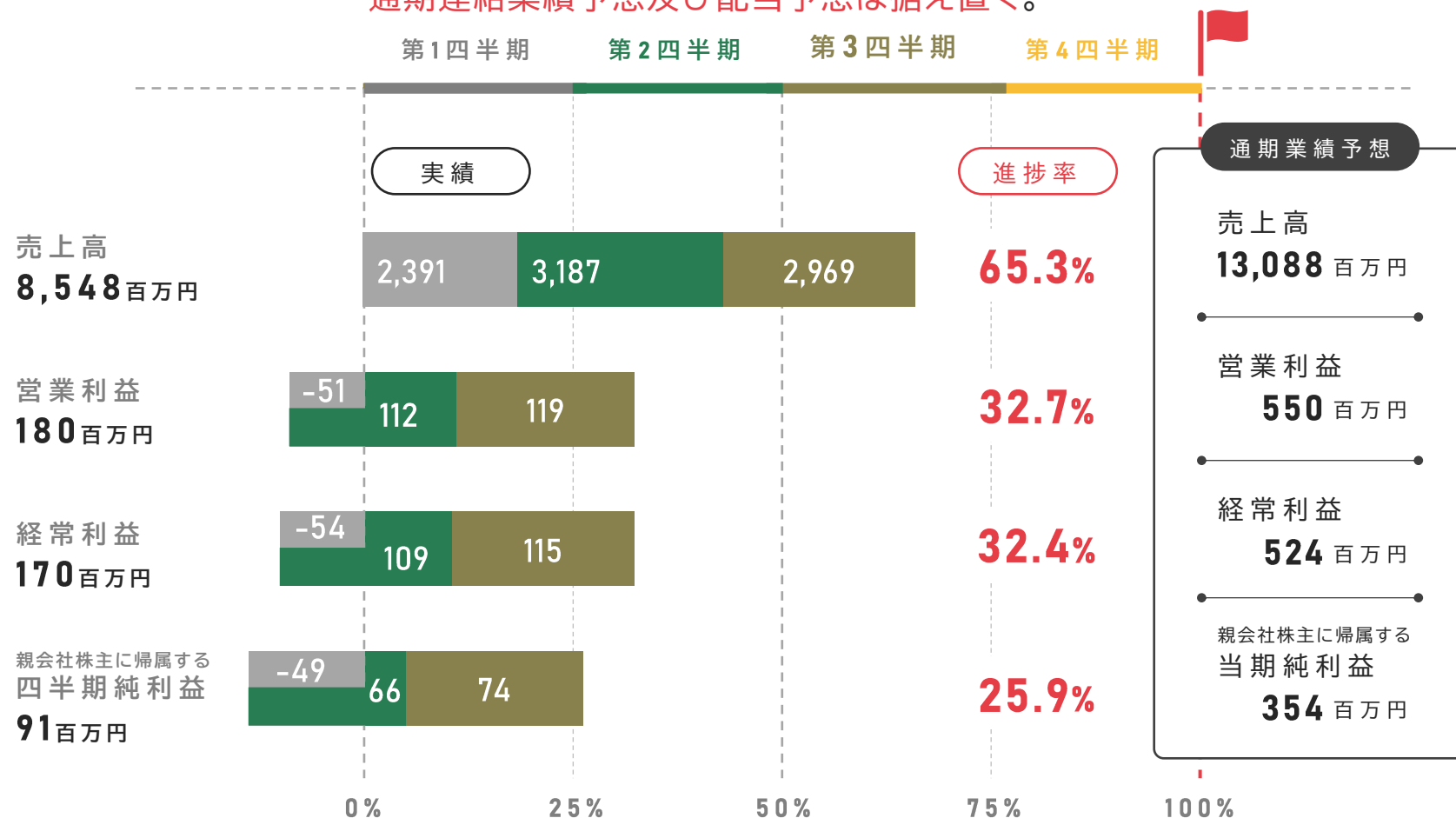
2026年10月期 第3四半期 連結業績進捗率

ハウス・エコ事業の受注残高は46億23百万円(第3四半期末)と過去最高水準を継続。第4四半期に複数の大型案件の売上計上を見込む。

第3四半期以降、木材事業の収益性が大幅に改善(減価償却負担の減少等)。

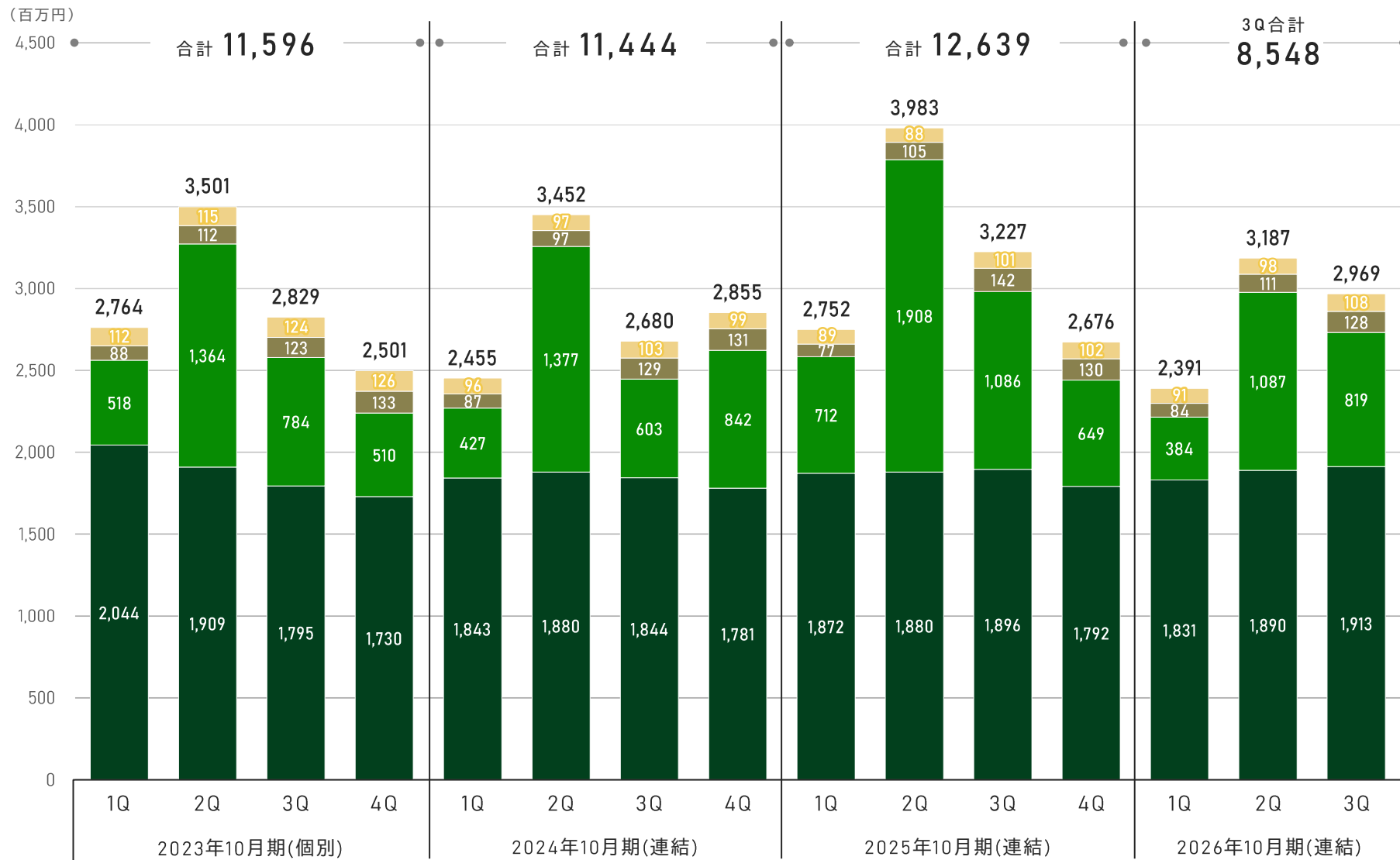
第4四半期の利益面は、全てのセグメントにおいて高い水準で推移することが見込まれるため、

通期連結業績予想及び配当予想は据え置く。



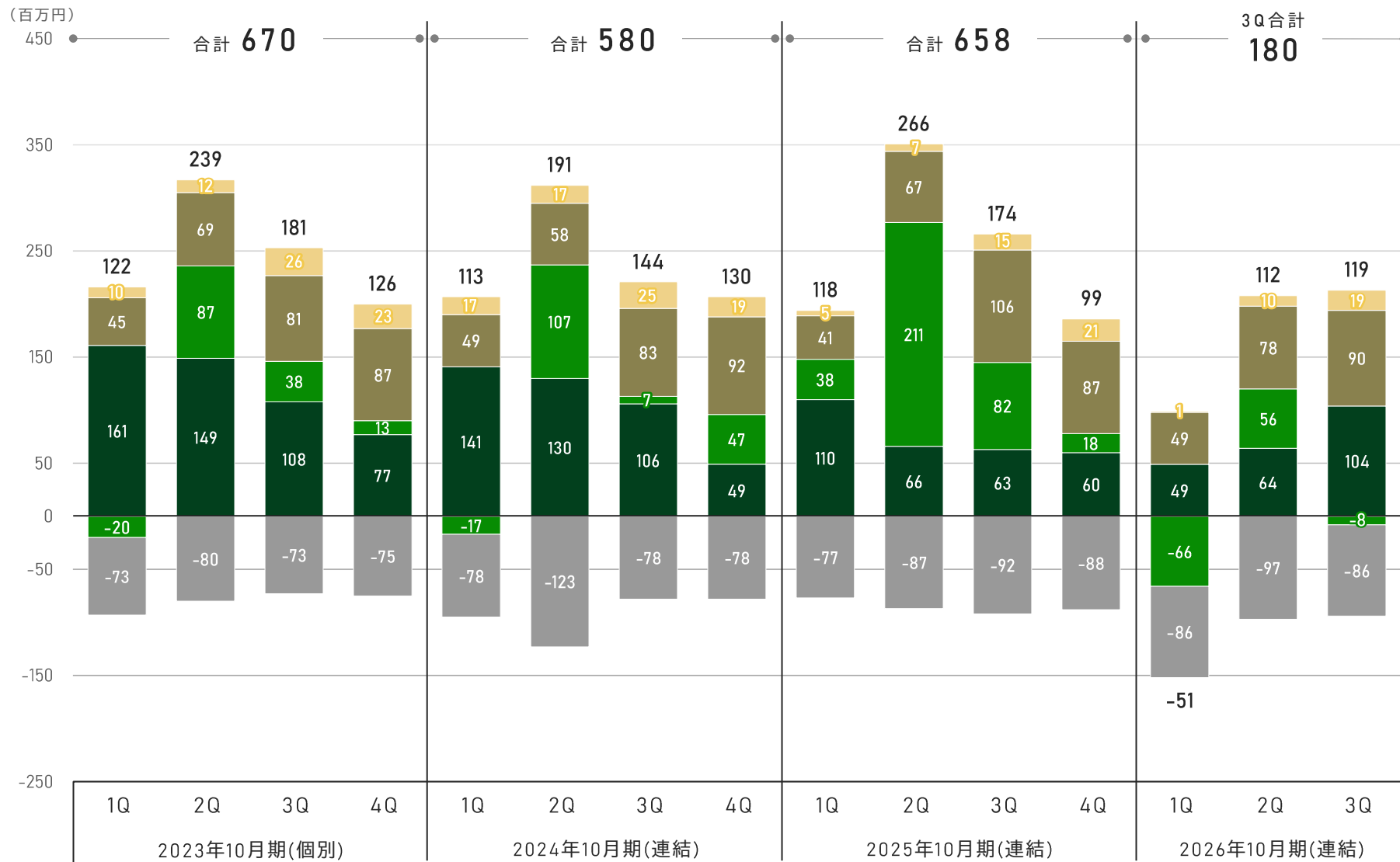
売上高(事業・四半期別)

● 木材事業 ● ハウス・エコ事業 ● 太陽光発電売電事業 ● ライフクリエイト事業、不動産事業(2024年10月期に撤退)

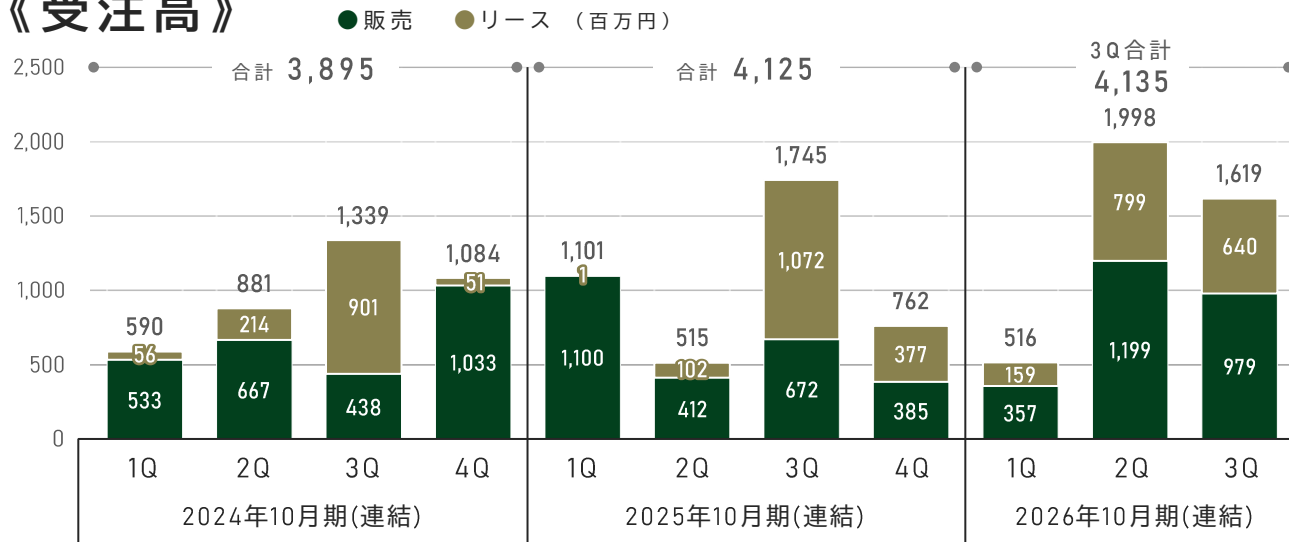


営業利益(事業・四半期別)

● 木材事業 ● ハウス・エコ事業 ● 太陽光発電売電事業 ● ライフクリエイト事業、不動産事業(2024年10月期に撤退) ● 全社費用



《受注高》

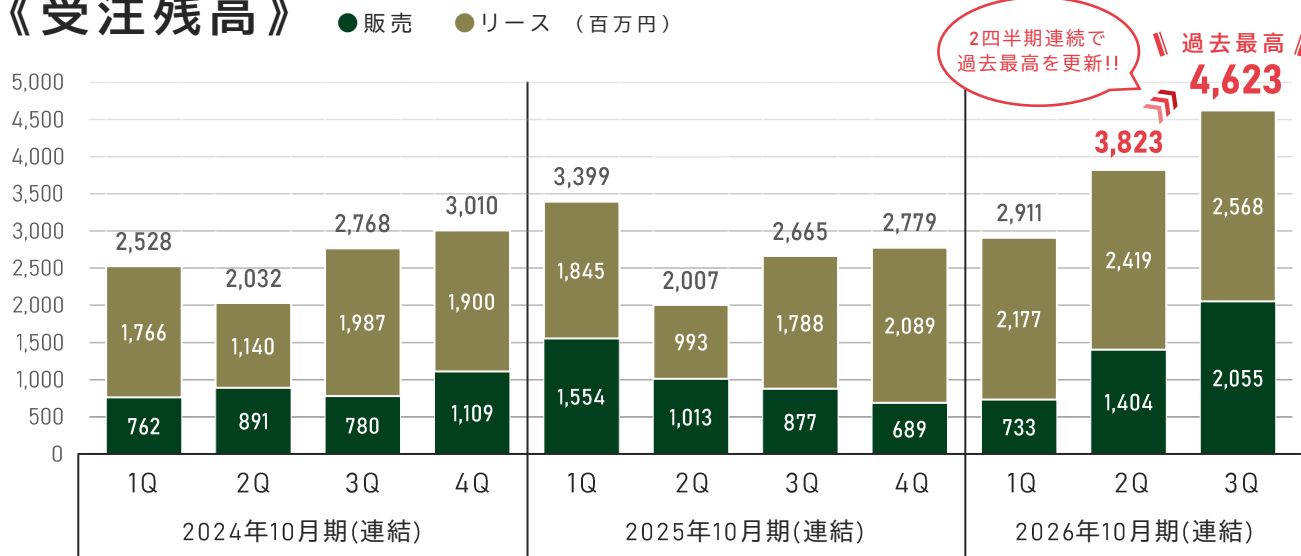


当第3四半期 受注高

軽量鉄骨分野において、複数の大型物件の受注により、**3Q合計の受注高が直前2期分の年間受注高を上回る**。なお、3Q(累計)の**見積作成件数は999件(前年同期比115.6%)**、**見積金額は重量鉄骨分野が大きく伸びているため、28,065百万円(前年同期比185.7%)**となる。

足元低迷している重量鉄骨分野への営業を強化し、同分野での大型案件の受注獲得を目指す。

《受注残高》



当第3四半期末 受注残高

複数の大型物件の受注に加え、売上高が低調に推移したこともあり、46億23百万円(前年同期比173.5%)となる。

※4Qにおいて、受注残高の35%程度が売上へ寄与するものと見込む。

確度の高い大型案件も多くあり、重点顧客を中心に既存領域の深耕及び隣接領域(軽量鉄骨と重量鉄骨)への展開に向けた積極的な提案営業を行う。

2026年10月期末においても40億円超の高水準な受注残高の維持を目指す。

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から経営者の判断に基づいて作成されており、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え下さいますようお願いいたします。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。



IR 担当窓口

株式会社オービス 経理部

- ・ TEL 084-934-2621 FAX 084-934-2624
- ・ E-MAIL: ir@orvis.co.jp
- ・ URL: <https://www.orvis.co.jp>